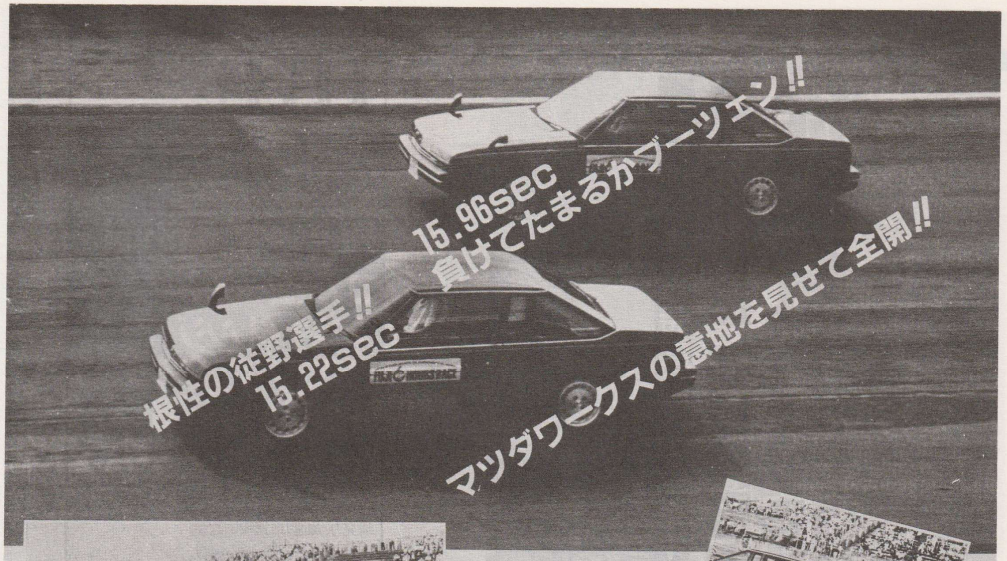
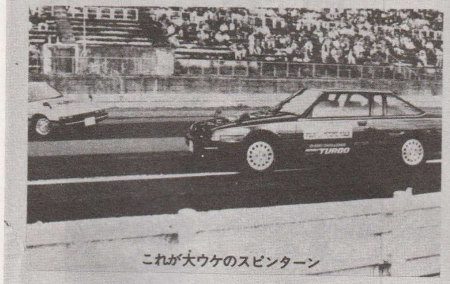


400m地点では140km/h !!

ハゲがベスカロロ、もうひとりはブーツェン


これが大ウケのスピンターン

大穴はロータリーガール

国サンは6番手

選手が15秒22というすばらしいタイムで一等賞。2位にもマツダの関谷選手が入った。ヨーロッパなどでRX-7を使い、レースやラリーに大活躍のトム・ウォーキンショーは3位の15秒60。4位はF2でもおなじみ、ティエリー・ブーツェン（15秒96）。続いてチーム・ロンドーをひきいる、ジャン・ロンドー（15秒99）、当日はベースカーの運転手だった、高橋国光（16秒01）。ハゲおじさんのベスカロロ（16秒17）はイマイチのタイム。ただひとりの女の子、ボニー・ヘンちゃん（カラーページのWEC速報に顔をのせといた）は初めて乗るターボが理解できず、16秒77。これはスタートで相当失敗したのだが、それでもこんなに速かった!!（コスモすごい）

ボニー・ヘンちゃんばなかなか人気もので、あのフェラーリ512BBを乗りまわすとは思えないような娘。0～400mが終わった後も観客にステッカーなどバラまいて、ひとりで注目をあびていた。（かわいそうなのはロータリーガールで、あまり話しかけられもしなかったから写真をとってあげた）

ジャーナリストの部もあったのだが、聞いたことのないオジサンばかりでタイムも悪いし、つまらなかった。

0～400mもウケたけど、もっとウケたのはスピンターンごっこ。お客さんが喜ぶのでブーツェンなど何度もサービスしておりました。





オールアバウト国産快速GTカー/試乗編16

# コスモロータリーターボ

## 4000回転からの加速がバツグン!!

573cc×2 プラスターボ

| | |
|---|---|
| 最高速度 | 208km/h |
| 0～400m加速 | 15・57秒 |
| 0～100km/h | 9・63秒 |
| 筑波ラップ | 1分18秒10 |
| パワーウェイトレシオ | 7・15kg/ps |
| トルクウェイトレシオ | 49・78kg/kgm |
| 価格（HT・GT） | 188・2万円 |

report/竹平素信

### トップの座をREにもたらすターボ

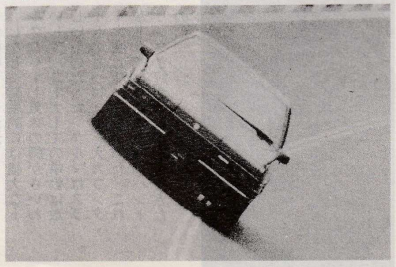
"国産最速カー"と断言させてしまう恐ろしく速いクルマ。これが、コスモ・ロータリーターボを形容するすべてかもしれない。とにかく速いのだ。

『速い』といえば、今まではトヨタの5M-GEUを積むセリカXX2800GTが、国産最速カーとしての地位を与えられていた。最高速度は優に200km/hをオーバーし、0～400mも16秒フラット近くで走り切ってしまう。スカイラインRS、ランサーターボ、つい最近登場したスタリオンターボも確かに速いクルマたちで、セリカXXに肉薄はするものの、最高速度では余裕で逃げ切られた、というのが事実。

そして、セリカXX2800GT登場から約一年後"スピードのチャンプ"は、ロータリーターボを積むコスモの手へと移ったのである。

どのくらい速かったのかというと、谷田部テストコースで最高速度208・69km/h、0～400m15・57秒（ドライ）。だがこれはベストな値ではない。テストはあいにくの夜間、それで必要に応じて（バンクには照明灯があるが、北と南のストレートにはない）ヘッドランプをライズアップさせねばならず、空気抵抗の面でハンディを背負う。200km/hの世界ではわずかな空気抵抗の増加でもスピードに予想以上の影響を与える。0～400mトライも2回のみ。強力なロータリーターボのパワーをタイミングよく路面に伝えきれなかったのだ。

こうしてみると、ベストなコンディションでじっくりテストができたとすれば、最高速度は210km/h、0～400mも15・20秒あたりがたたきだせるはず。とにかく、国産最速カーであることは事実だ。

コスモ・ロータリーターボ最大の売り物は、そのパワーユニットにある。すなわち、最高出力160馬力/6500回転、最大トルク23・0kgm/4000回転は、5ナンバー車で最強。2.8ℓツインカム6の5M-GEUにも匹敵するものだ。

国産最速カーといってしまえるほど速いクルマだ